

親と子は、どうしてもいつもすれ違う。

11.8
ROADSHOW [FRI.]

次男。

長男。

長女。

母親。

ひとよ

一夜

壊れた家族は、
つながれますか。

11.8
ROADSHOW [FRI.]

あの夜、母は父を、殺した。子どもたちの幸せと信じて—— 15年後、母が、帰ってきた。

佐藤健 鈴木亮平 松岡茉優
音尾琢真 筒井真理子 浅利陽介 韓英恵 MEGUMI 大悟(千鳥)
佐々木蔵之介・田中裕子

監督：白石和彌 脚本：高橋 泉 音楽：大間々 昇 原作：桑原裕子「ひとよ」

製作総指揮：佐藤直樹 製作：新井重人、千葉伸夫、加太孝明、宮崎純太、熊手吉次、渡辺章仁、永田賢亮、豊田雅彦、有馬一昭
エグゼクティブプロデューサー：稲家康孝、安藤健広、プロデューサー：高橋 信一、長谷川晴彦、安田邦弘、アソシエイトプロデューサー：関根健晴、阪田雅裕
撮影：黒島淳祐(D.S.C.) 美術：今村 力 照明：おけつよし 録音：浦田和治 装飾：多田明日香 編集：加藤ひとみ 音響効果：柴崎康治
衣装：宮本まき江 ヘアメイク：有路涼子 石田 伸 VFXスーパーバイザー：朝倉 鈴 助監督：茂木晃仁 制作担当：宮森隆介
製作幹事・配給：日活 配給協力：ライブ・ビューイング・ジャパン、金西・制作プロダクション、ROBOT
製作：日活/アミューズ/ROBOT/朝日新聞社/集英社/ローソンエンタテインメント/D・O・T・ライブ・ビューイング/シャパン/イオンエンターテイメント ©2019 D・O・T 製作委員会 (C)

「あなたたちが生まれた夜、
わたしがどんなに嬉しかったか。」

STORY

どしゃぶりの雨降る夜に、タクシー会社を営む稲村家の母・こはる（田中裕子）は、愛した夫を殺めた。それが、最愛の子どもたち三兄妹の幸せと信じて。そして、こはるは、15年後の再会を子どもたちに誓い、家を去った――

時は流れ、現在。次男・雄二（佐藤 健）、長男・大樹（鈴木亮平）、長女・園子（松岡茉優）の三兄妹は、事件の日から抱えたこころの傷を隠したまま、大人になった。抗うことのできなかった別れ道から、時間が止まってしまった家族。そんな一家に、母・こはるは帰ってくる。15年前、母の切なる決断とのこされた子どもたち。皆が願った将来とはちがってしまった今、再会を果たした彼らがたどりつく先は――

「これは母さんが、親父を殺してまで
つくってくれた自由なんだよ。」

日本映画史に残る傑作の誕生

2013年『凶悪』を世に送り出して以降、『彼女がその名を知らない鳥たち』（17）、『孤狼の血』（18）など、毎年のように賞レースを席巻。6年間で手掛けた作品たちは、日本アカデミー賞をはじめとする数多の国内外映画賞で実に60以上もの受賞を果たし、名だたる俳優たちがいまもっとも出演を熱望する映画監督・白石和彌。いまを強く生きる人間たちへの賛歌を圧倒的な熱量で描いてきた白石和彌監督が「いつかは撮らねばならない」と感じていたテーマ【家族】へ、初めて真正面から挑み、15年前の事件によって家族の岐路に立たされた、ひとりの母親と子どもたち三兄妹のその後を描きます。主演は、映画・ドラマと話題作品への出演が相次ぎ、全世代から支持される実力派俳優・佐藤 健。さらには鈴木亮平、松岡茉優、音尾琢真、佐々木蔵之介、そして、田中裕子と、『ひとよ』の物語に魅了された各世代を代表する豪華女優陣が集結しました。一夜にして激変する家族の運命を通し、尊くも時に残酷な“家族の絆”、そして、言葉にできない“究極の愛”を観る者すべてに問いかける、ヒューマンドラマの傑作がこの秋、誕生します。

あまりに切ない“母なる事件”から15年。

希望を夢見た親と子のゆく末は――

「家族の絆」の喜びと哀しみがこころを打つ、感涙ヒューマンドラマの大作

11.8 ROAD
SHOW
[FRI.]

